

## 平成29年度 日本史A

教科(科目)	地理歴史(日本史A)	学科(コース)・学年	全学科・3学年
使用教科書	高等学校 日本史A(第一学習社)		
副教材等	写真資料館 日本史のアーカイブ(東京法令出版)		
履修単位(時間)	2単位(70時間)	履修条件	選択B

## 1. 学習目標

我が国の近現代の歴史の展開を諸資料に基づき地理的条件や世界の歴史と関連付け、現代の諸課題に着目して考察させることによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。

## 2. 指導の重点

- 日本の近現代の歴史を、国際的環境や地理的条件と関連づけ、世界史の中でどのように位置づけられているか、考察する力を養う。
- 現代の日本やその諸課題の歴史的背景を学習することを通して、それら諸課題に対して多面的・多角的に考察し公正に判断する能力を育み、課題解決へなすべきことを自覚させる。

## 3. 学習の計画

学期	学習内容	学習のねらい	学習活動(評価方法)
1 学期	第2部 第1章 近代国家の形成と国際関係の推移 第1節 近代への胎動 第2節 明治維新 第3節 近代国家の確立 第4節 対外関係の変化 第5節 政党政治の展開	<ul style="list-style-type: none"> <li>江戸時代の日本の対外関係について理解する。</li> <li>開国に至る経緯と、幕府の対応について理解する。</li> <li>開国以後の情勢について、幕府が崩壊した一連の流れを理解する。</li> <li>明治政府の初期の諸政策によって、近代日本の基礎が形成されたことを理解する。</li> <li>日清・日露戦争の経緯と結果、また、この戦争を経て、アジアに対して日本が勢力の拡張をおこなったことを理解する。</li> <li>明治後半から大正期において、国内的に政党政治が展開したことを理解する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○授業に真剣に取り組む、内容の理解に務める。</li> <li>・学習状況観察</li> <li>・提出課題</li> <li>・単元テスト</li> </ul>
2 学期	第2章 近代産業の発展と両大戦をめぐる国際情勢 第1節 近代産業の発展と社会運動の展開 第2節 国民生活の変化と文化 第3節 第一次世界大戦と日	<ul style="list-style-type: none"> <li>日清・日露戦争の過程で、日本に産業革命がおり、資本主義が確立したことを理解する。</li> <li>国家主義思想や大正デモクラシーの風潮に着目して、明治期と大正期の思想の違いについて理解する。</li> <li>・第一次世界大戦に日本が参戦した</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○授業に真剣に取り組む、内容の理解に務める。</li> <li>・学習状況観察</li> <li>・発問評価</li> <li>・提出課題</li> <li>・単元テスト</li> <li>・定期テスト</li> </ul>

	本 第4節 第2次世界大戦と日本	意図，また第一次世界大戦を通しての日本の外交方針について理解する。 ・中国・アメリカを中心とした国際関係の変化にも着目しながら，太平洋戦争に至る過程を理解する。	
3 学 期	第3部 現代の日本と世界 第1章 現代の日本と世界 第1節 日本の再出発  第2節 独立後の政治と対外関係	・第二次世界大戦後の連合国による対日占領政策，民主化の諸改革の内容について理解する。 ・主権回復後の日本の国内的な政治の推移と，新しい外交関係の確立の動きについて理解する。	○授業に真剣に取り組み、内容の理解に務める。 ・学習状況観察 ・発問評価 ・提出課題 ・単元テスト ・定期テスト

4. 評価規準と評価方法

関心・意欲・態度	思考・判断・表現	資料活用の技能	知識・理解
近現代史を中心とする我が国の歴史の展開に対する関心と課題意識を高め、意欲的に追究するとともに、国民としての自覚と国際社会に主体的に生きる日本人としての責任を果たそうとする。	近現代史を中心とする我が国の歴史の展開から課題を見だし、我が国の形成の歴史的過程と生活・文化の地域的特色を、世界史的視野に立ち多面的・多角的に考察し、国際社会の変化を踏まえ公正に判断して、その過程や結果を適切に表現している。	近現代史を中心とする我が国の歴史の展開に関する諸資料を収集し、有用な情報を適切に選択して、効果的に活用している。	近現代史を中心とする我が国の歴史の展開と生活・文化の地域的特色についての基本的事柄を理解し、その知識を身につけている。

具体的な評価の対象

- ・年5回（5月中旬、7月上旬、10月上旬、11月下旬、1月下旬）の定期考査
- ・単元テスト、授業で使用したプリント、学習・授業ノートなど
- ・学習活動の参加状況（態度、発言内容、授業への取り組みなど）

5. その他（留意すべき点・担当者からの一言）

現在の社会のしくみや課題に直接つながっている、日本の近現代史を学ぶことは、これからの時代を生きる皆さんにとって、非常に重要で意義あることです。日本史の学習を通して歴史的思考力を身につけることは、共感力と想像力を養うことであり、豊かな人間性を培うことにもつながります。